

第2回遺伝子分析科学認定士試験への挑戦

目標、計画、困難、過程、明暗から学んだこと

生島 唯（昭和医療技術専門学校 臨床検査技師科3年）

大西英文（昭和医療技術専門学校）

Key words : 遺伝子分析科学認定士、技術能力、挑戦、心の豊かさ

【はじめに】昨年、先輩達は日本で初めて実施された遺伝子分析科学認定士試験(以下試験)を受験した。その勇気ある挑戦には驚きと尊敬を抱いた。技術能力を重視する本校では、将来を見据え一早く試験に対応し教育カリキュラムを構築していた。しかし、3年次での受験は、臨地実習という大きな壁にあたり、両輪での進行は困難を極めた。結果的に試験に合格できたことは、自己を伸ばし大きな自信となるが、仮に結果が『暗』であった場合、今後の勉強や友達との関わり方に影響を与えるのではないかと感じていた。そこで、受験した学生が一連の過程から結果に至るまで、何を学び、何を感しているのかを知る目的で、学校が行う学生への面接に同席した。

【対象及び方法】対象は、本校における昨年度受験者24名の感想文、今年度受験者全員41名への聞き取り調査とする。方法は、班編成を4~6名とし、合格グループと不合格グループに分ける。すべての班に同じ質問：1) 合否の受け止め方、2) 受験した動機、3) 試験に対する努力度、4) 試験当日の実力の発揮度、5) 学校の教育カリキュラム評価と指導教員の評価、6) 昨年の先輩達についての評価、7) 1,2年生への助言、8) 将来、資格が生かされると思うかなどの質問を行い考察する。

【結果及び考察】では、合否にかかわらず、全員が満足しているとの回答であった。理由は土曜放課後、日曜実習、目標に向かって皆で努力したことに誇りと絆の強さを感じてい

た。-1)では、合格24名はとても嬉しい・不合格17名は残念な結果と回答。その中で実技と動画試験は合格し、筆記が不可であった学生から、2部門で合格できたことはとても良かったと感じ、また多くの学生から筆記が難しく、勉強量とテキストの利用度の低さが原因と分析していた。2)では、遺伝子が好き、就職に有利、遺伝子が苦手と3つの意見に分かれた。3)での自己評価は厳しく、臨地実習と両輪で進めるのが難しいと感じていた。4)では、40名の学生は自己の力を発揮できたと回答。5)では、全員から高い評価が得られ、感謝の気持ちを持っていた。又、基礎の部分の講義は、受験しない学生にも参加させ、応用編はテキスト中心で進めてほしいとの意見が寄せられた。6)では、仮に昨年度なら、大半の学生は受験しなかったと回答、未知への挑戦をした先輩達に尊敬の念を持っていた。7)では、後輩達への十分な説明と最善を尽くすことを伝えて欲しいと回答。8)では、未知数と考えている学生と資格を生かしたいと考えている学生はほぼ同じであった。

【まとめ】6時間に及ぶ意見交換は、今まで皆で取り組んできた姿勢が思い出され、学生一人ひとりに対する学校の思いやりを強く印象づけられた。全員が試験結果にかかわらず前向きにとらえ、協力し合い、母校を良くしたいという気持ちが感じられた。私も今を大切に努力を積み重ね、技術能力と心の豊かさを兼ね備えた臨床検査技師になりたい。